

会議の開催結果について

- 1 会議名 平成22年度 上尾市保育評価審査会
- 2 会議日時 平成23年2月18日(金) 午後1時30分から
- 3 開催場所 全員協議会室(本庁舎議会棟4階)
- 4 会議の議題
 - ・審査会の開会
 - ・委員委嘱
 - ・会長、副会長互選
 - ・委員、事務局の紹介
 - ・審査会の開会

【議事】

- ① 進行管理部会の報告について
 - ② 運営部会の報告について
 - ③ 研修部会の報告について
 - ④ 安全委員会の報告について
 - ⑤ 第三者評価の中間報告について
 - ⑥ 公開保育の実施状況について
 - ⑦ 質疑応答、ご意見等
 - ⑧ その他
- 5 公開・非公開の別 公開
 - 6 傍聴者数 0人
 - 7 問い合わせ先 健康福祉部 子ども家庭課

会 議 録

会議の名称	平成 22 年度 上尾市保育評価審査会	
開催日時	平成 23 年 2 月 18 日(金) 午後 1 時 30 分～午後 4 時 30 分	
開催場所	全員協議会室 (本庁舎議会棟 4 階)	
議長(委員長・会長)氏名	金谷 京子	
出席者(委員)氏名	金谷 京子、久芳敬裕、本田 直子、田中 元三郎、西川 正 下浅 めぐみ、前山 かよ子、 高橋 美佐江、小菅 よし子 清水 計伊	
欠席者(委員)氏名	なし	
事務局(庶務担当)	健康福祉部 子ども家庭課	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	1 委嘱式 ・委員の紹介 (市職員以外) ・市長あいさつ 2 開会 ・会長、副会長互選 ・会長あいさつ (金谷会長) ・委員 (市職員以外) 及び事務局職員 (異動) 紹介 ・審査会の開会 ・開会のあいさつ (金谷会長) 【議事】 ①進行管理部会、運営部会、研修部会、安全委員会、 第三者評価及び公開保育の結果報告について ②質疑応答、ご意見等 ・閉会の挨拶 健康福祉部長	・各部会からの報告事項については、保育評価審査会 で了承されました。
議 事 の 経 過	別紙のとおり	傍聴者数 なし
会 議 資 料	別紙のとおり	
<p>議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">年 月 日</p> <p style="text-align: right;">議長(委員長・会長)の署名 _____</p> <p style="text-align: right;">議長に代わる者の署名 _____ (議長が欠けたときのみ)</p>		

議事の経過

発 言 者	議 題 ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>【資料一覧】 (資料 1) 進行管理部会報告 (資料 2) 保育運営部会報告 (資料 3) 研修部会報告 (資料 4) 保育所安全委員会のまとめ (資料 5) 第三者評価実施報告 (中間) (資料 6) 公開保育実施結果報告</p> <p>1 開会 ・ 委員の紹介 * 市職員を除く再任委員の紹介 ・ 事務局の紹介 * 健康福祉部長、子ども家庭課長の紹介 委員 10 名全員が出席のため会議が成立 会議公開だが、傍聴人はなし</p> <p>2 金谷会長あいさつ</p> <p>3 議事</p> <p>(1) 進行管理部会の報告について 資料 1 に基づき、平成 22 年度に検討してきた内容の説明を行いました。 I 進行管理部会の活動内容について ・ 事故防止行動計画進行管理表にもとづき、各保育所における状況の把握、進行管理の取りまとめを行いました。平成 22 年度取組む事業項目は 10 項目になり、6 月上旬に進行管理表を配布し、6 月下旬に回収しました。今年度は検討を要する事項があることから 3 回会議を重ね、10 月に平成 20 年度当初に統一を行った時点の「行動計画進行管理表」の確認作業を行いました。 II 本表の見直しの結果について ・ 平成 22 年度終結する 10 事業項目について III 今後の課題及び提案について ・ 今年度の取組み結果の中で、予算措置が伴う事項については、原課だけでは対応できないため事業自体は終結しますが、引き続き各種要綱で対応します。終結する 10 項目は引き続き平成 21 年度終結事業を含め「保育実施要領」及び「危機対応要領」で取りまとめを行います。</p> <p>(2) 保育運営部会の報告について 資料 2 に基づき、21 年度に検討してきた内容の説明を行いました。 I 「子どもの発達から見える保育における危険及び配慮すること」</p>

①各保育所で検討

- ・安心、安全な保育を進めることは、常に子どもの目線での気づきが重要です。今後も各保育所でその都度、気づきを出し合い見直しに取り組み、職員間のチームワークの構築を進めます。

②16 保育所から提出されたものを運営部会で検討し、共通事項をまとめました。

- ・0歳からおおむね2歳までは保育士の配慮で防ぐことができるものが多い。
- ・3歳以上児は、友だちとの関わりなど、生活の中での事故が事前に予測されました。

II 「危機対応要領見直しの検討」

- ・平成18年度に作成した「危機対応要領及び資料編」において、削除、変更した箇所及び現在使用している資料の整理、確認をしました。また、削除変更、追加した資料を提案します。

III 平成23年度の課題について

- ・進行管理部会とともに行動計画表の終結項目の整理、保育課程年間指導計画の様式の見直しの検討を行います。また、新システムの幼保一体化において、子ども指針（仮称）の策定を検討します。

(3) 研修部会の報告について

資料3に基づき、平成22年度に取り組んだ研修内容の説明を行いました。

- ・園内、所長、副所長、主任保育士、看護師、調理員研修
- ・視察研修（ゆうゆうくじら第二、私立つつみ保育園）
- ・年齢別研修、職員全体研修
- ・時間外職員研修

今後の課題

・幼保一体化を含む「子ども・子育て新システム」等、新たな保育制度の導入による保育の枠組みの変更や、子育てのためのサービスの提供に対応するため、更なる自己研鑽や資質及び専門性の向上が求められます。そのため、保育士等の資質向上を図る目的から、今後も引き続き保育所職員研修計画に基づき、研修内容の策定・実施・見直しを行います。

(4) 安全委員会の報告について

資料4及び当日配布資料に基づき、平成22年度に検討して内容の説明を行いました。

- ・保育所安全委員会を6月、8月、11月に開催しました。内容については下記のとおりです。

I 第1回会議 6月4日（金） 午後2時～5時

- ①保育所安全委員会の概要説明について（副所長9名変更）
- ②副委員長2名の選出
- ③事例研究（3事例）

*平成21年10月～22年3月において公立保育所で発生した事故（受診・未受診）、ヒヤリ・ハット事例の中から、各保育所2事例を選出し事務局に提出します。事務局は提出された32事例の中から3事例を選出し、3グループに分かれ事故事例の分析及び結果報告を行いました。

- ・2回目以降の会議の進め方について
 - ①第2、3回会議の開催日の確認
 - ②「事故・ヒヤリ・ハット事例」及び「事故分析シート」の提出方法の確認について

II 第2回会議 8月24日(火) 午後2時～5時

- ・平成22年4月～6月において発生した事故(受診・未受診)、ヒヤリ・ハット事例の中から、各保育所2事例を選出し事務局に提出しました。事務局は提出された32事例の中から6事例を選出し、3グループに分かれ1グループ2事例の分析及び結果報告を行いました。
- ・事故分析シートにもとづき「マニュアル」～「分析から見えてきたもの」の報告を行いました。

iii、第3回会議 11月18日(木) 午後2時～5時

- ・平成22年7月～9月において発生した事故(受診・未受診)、ヒヤリ・ハット事例の中から、各保育所2事例を選出し事務局に提出しました。事務局は提出された32事例の中から6事例を選出し、3グループに分かれ1グループ2事例の分析及び結果報告を行いました。
- ①委員長から事故報告書は5W1Hで記入するよう指導がありました。
- ②委員から安全委員会が開催されない期間の事故状況について、月単位で他保育所の参考になるような情報を報告して欲しいとの要望がありました。
- ・事故情報同様に施設修繕等の重要なものについて、情報提供を行って欲しい旨の要望もあった。

IV 市立保育所での事故発生状況について

V 第三者評価保育所巡回指導実施報告について

- ①資料5に基づき、平成22年度に実施した第三者保育所巡回指導実施報告の内容説明を行いました。
- ②日常取り組んでいる保育の確認を行い、保育の質の向上を図る目的で平成19年度～21年度の3カ年で16保育所において第三者評価を実施しました。
- ③第三者評価2巡目の実施にあたり、前回の結果をふまえて保育指導、保護者対応等を中心に保育専門家による巡回指導を行いました。
- ④9月～12月の4か月間に、5カ所保育所において3回巡回しました。
*実施保育所 西上尾第一、しらこぼと、あたご、かわらぶき、畔吉保育所
- ⑤まとめ
*施設の安全面、衛生面、保育計画、保育内容、保護者対応及び環境構成等で具体的な指導を受け、保育士の質の向上と保育の見直しを図ることができました。

VI 公開保育の実施報告について

- ①資料6に基づき、平成22年度に実施した公開保育実施報告を行いました
- ②実施目的は、地域の皆さまに保育所を知っていただくことです。また、小学校との連携を図ることで、滑らかな移行を行います。

	<p>③実施は8月と11月の2回行いました。</p> <p>④対象者は、地域住民、主任児童委員、保護者家族及び小・中学校、幼稚園、保育所、家庭保育室関係者などです。</p> <p>⑤実施方法については、広報「あげお」の掲載、ポスター・パンフレットの作成及び関係機関へ案内状を送付して周知を図ります。</p> <p>⑥実施結果として、</p> <ul style="list-style-type: none"> i. 第三者から意見や感想を聞くことは、自分たちの日々の保育を見直す良い機会になりました。 ii. 地域との関わりができるようになりました。 iii. 小学校との情報交換ができ、入学後の子どもの様子が聞けて連携が深まりました。 <p>～休憩～</p> <p>質疑応答</p>
金谷会長	<p>平成23年度の課題や計画について具体的に教えていただきたい。 また、保育評価審査会は来年度2回実施できるのでしょうか。</p>
事務局小川	<p>取組みについて、中間報告できるようなものがあれば行っていきたい。 難しいようであれば、2月にまとめて報告します。</p>
金谷会長	<p>了解しました。 質問や意見があれば、発言してほしい。</p>
西川委員	<p>清水保育士の事故の報告について、76ページの事故分析で、10月は涼しくなってくることで子どもの動きが活発になるのは分かるが、11月や12月も増えているのがわからない。事故が増えた原因は何でしょうか。</p>
事務局武笠	<p>資料80ページの受診回数の比較によると、2回受診している軽度な怪我が増えたと思われる。保護者から軽度な怪我でも受診してほしいとの要望もありました。</p>
西川委員	<p>親と保育士の認識が必ず一致しているとは限らないと考えた方がよい。 親の要望があったからと考えると、受診した回数は親への対応によって減らしていくことになる。 また、すべり台から転落したケースについては、お迎えの時だけではなく、常に起こりえるのではないかと。</p>

田中委員	<p>遊びの中で発生しうる事故と発生してはいけない事故とを区別しなくてはならない。リスクマネジメントの面からも、許容される事故と排除しなければならない事故とを分けると、対応も違ってくるのではないか。</p> <p>田中委員と本田委員の施設ではどうですか。</p> <p>我々の方からすれば、怪我は許容されない。</p> <p>年齢によってケガの質は異なり、また発生した場所によっても異なる。その把握を保育士がしていかななくてはならない。</p> <p>7ページに「常に子どもの目線での気づきが重要」とあるが、子どもが、自分がけがをしそうなことを事前に把握して行動していることはあり得ない。保育士が事前に把握して、それを子どもに気付かせていくという保育士の資質が重要だと思う。ヒヤリ・ハットなどを事前に感知できる保育士を育成し、怪我は減らさなければならない感覚を常に持って取り組まなければならない。また、ケガの説明や事後処理で親とトラブルになることもあり、その内容は親によって違う。マニュアルを作るのは大切だが、それを生かしていかなければならない。</p>
高橋委員	<p>すべり台の件でいえば、まず気温や明るさなどの環境に配慮しなければならないし、お迎えが来た時の子どもの解放感や気持ちを理解しなければならない。保育所の構造にもよるが、子どもや親に配慮が必要である。</p>
前山委員	<p>すべり台の件は、幸いに軽傷で済んだが、骨折などの大事故になりうるケースでした。子どもには飛び降りてはいけないと教えていたが、起こってしまいました。</p>
西川委員	<p>児童のみでは遊具は使わせていないのですか。</p>
前山委員	<p>事故が発生した18時30分頃には、1部屋で保育しており、外遊びは行っていない。</p>
西川委員	<p>一人では外に出ないようにしているということですか。</p>
前山委員	<p>そうです。</p>
西川委員	<p>親が迎えに来た時に子どもがひとりで遊ばないようにということだと思うが、その分析がしっかりしてくれば、何が危険か分かってくる。</p>
高橋委員	<p>子どもは保護者が見えたと、ひとりですべり台に上るなど、日ごろはとらない行動をとることがある。それが課題でもある。</p>
本田委員	<p>危険であることを日ごろ注意しているにも関わらず、子どもは遊んでしまう。</p>
西川委員	<p>子どもが予測できない行動をとることをまとめ、新任の保育士などに伝えていった方がよい。</p>

	<p>また、子どもがどのような場面でケガをするかについて、保護者がもっと知っていかなければならない。安全と危険の間で遊ぶのが子どもの遊びだとしたら、リスクとしては家庭も保育所も同じであるといえる。立場上絶対に事故を起こしてはいけないといわなければならないのは分かるが、実際に子どもはけがをしないで育っていくわけではない。保護者に事故の経緯や内容を説明して許容してもらえるとよい。</p>
<p>本田委員</p>	<p>入所説明会等で話してはいるが、けがの部位や度合、保護者への説明や保護者との信頼関係による。</p> <p>立場上事故を起こしてはいけないと言わなければならないのではなく、実際に起こしてはならない。</p>
<p>田中委員</p>	<p>子どもの発達にけがは付き物という前提で話してくれるのはありがたい。子どもに包丁や金づちといった道具を使わせる際に、けがをするからと言って使わせないのではなく、子どもの発達段階に合わせた道具選びと、どうすると怪我をするのかを子どもに話して気付かせていくことが必要である。不慮の事故をどうやって無くしていくかが現場の仕事である。</p>
<p>本田委員</p>	<p>子どもによって大きく差がある。子どもの特性を把握して保護者に伝えていく。</p>
<p>西川委員</p>	<p>一番理解を得づらい保護者に合わせて保育することには疑問がある。保護者とのトラブルは増えていることが現実であるし、上尾保育所死亡事故もその中で起こったことは明らか。トラブルの対応をまとめていけば、トラブル発生防止に役立つと思う。</p> <p>また、事故発生の際のチェックシートに親への説明に関する欄があったが、親の気が済んだかということは重要である。話を聞いてもらうことで気が済むことが多いので、親の気持ちを聞けたかということに関するチェック欄があった方がいい。</p>
<p>久芳副会長</p>	<p>西川委員のように理解していただけると保育所側としてはありがたい。また、本田委員の話のとおり、事故は起こしてはいけないということは確かである。しかし、100人の子どもが走れば確率として何人か転んで擦り傷などのけがしてしまう。このような確率として起こりうるけがについては施設としてリスクを負うが、骨折などの大けがは絶対に起こさないように注意し、施設長はそのことを伝えていかななくてはならないと思う。萎縮して子どもの育成に支障をきたすことには疑問がある。</p> <p>上尾市はしっかり対応しているので、萎縮せず保育してほしい。</p>
<p>金谷会長</p>	<p>9ページの資料のように、子どもの発達と予想される事故をまとめたことはよいと思う。保育士の配慮の点について、子どもの活動を制限しないように配慮し、子どもに因果関係を考えさせ、事故について子どもと保育士が一緒になって考えていくとよい。</p> <p>ほかに、質問はありますか。</p>

田中委員	11 ページのプール日誌について、児童の体調や連絡事項を記入する個人用のプールカードのようなものはないのですか。
事務局 佐々木	連絡ノートにチェック欄があります。
田中委員	我々も、記載がない場合は保護者に連絡してできる限り確認しています。
金谷会長	進行管理部会や運営部会の方はどうですか。
西川委員	進行管理部会の終結する事項について、スーパーバイザーが足りないことは、予算の都合上難しいですか。
金谷会長	現場としてはどうですか。
小菅委員	スーパーバイザーの横田主幹は多忙で、懸案事項がないと相談しづらい。電話対応が主だが、来ていただけるとありがたい。2人いることが望ましいと思います。
事務局横田	一つの苦情に2～3時間かかることもある。今年度は各保育所を2回ほど巡回したが、それ以上は困難。対応が困難な保護者が増え、なかなか納得してもらえないこともあり、保育所の負担も増えています。 気になる子も増えてきており、保護者の育児支援のためにも巡回の回数を増やしていく予定です。
金谷会長	他に質問はありますか。
西川委員	アンケートについて、保育所がどのような保育をしているかを保護者が理解し共感しているかどうかを知りたかったのだと思う。保育士の保育方針を感じられているかといったことをアンケートで調査できると、保育士と保護者の関係が見えてくる。
事務局武笠	アンケートの回答には、入所説明によって安心して預けられたといった意見を頂いている。
金谷会長	進行管理部会の内容が終結し、運営部会に引き継いでいくが、保育実施要領にどのように反映していくかが課題ということだった。どのように反映していくのかを具体的にしてほしい。 また、研修について、将来的に各保育所で研究大会のようなものを取り組んでいただき、発表の場を設けてほしい。第1回目は評価審査会のメンバーでパネルディスカッションを行ってもいいと思う。自己研鑽の場を設けた方がいいと思うので、検討してほしい。
下浅委員	公開保育をもっと周知してほしいと思います。

事務局横田	保育所の園だよりで周知しているほか、支所・出張所にポスターを掲示し、広報でも情報提供しています。
西川委員	保護者は自分の利用している保育所しかわからない。他の園の公開保育に参加していいものなのですか。
金谷会長	次年度の公開保育の実施計画はどのようになっていますか。
事務局横田	4月に新たな所長が決定した後、所長会で検討する。幼保連携の観点から、小学校教諭が参加しやすい7月～8月に4日間位を検討しています。また、保護者が他の保育所の公開保育に参加できるような呼びかけを進めていきたい。
本田委員	1日保育士体験は、公立保育所で実施していますか。
事務局横田	大石保育所で実施しています。
本田委員	園自体で方針はありますか。 当初は疑問に思うこともありましたが、実際2、3年実施してみると、保護者に色々見てもらえるほか、保護者の話やお互いの要望も話し合えてよい。
事務局横田	今年度は公開保育を経て公立私立の園長会議を2度行う予定で、既に1回目を実施し、3月に2回目を予定しています。
金谷会長	他に質問はありますか。
田中委員	この会議は保育評価審査会ということで、事故やけがに対する話し合いに重点があると思う。先日他市での会議に参加した際、参加していた幼稚園や保育園の園長から、保護者からのクレーム対応に関する話が非常に多く出てきた。これは保育の評価に関係する部分が大いからではないか。保護者への説明責任に関することをこれからは保育の評価として取り入れていく必要があるのではないか。
金谷会長	計画進行管理の中にも保護者対応についてあります。
田中委員	けがや事故のクレームだけでなく、園内のトラブルなども評価の対象になると思う。
金谷会長	今、評価ということであったが、進行管理表があったときはそれをもとに評価していたが、今後、保育実施要領に取り込んでいく際に、実施要領で評価することはおかしいところがあると思う。保育の点検のためのシステムはあった方がいい。運営部会の課題である。
事務局松原	進行管理表がきっちり生かされていくようにしたい。また、確認できる

	<p>ようなものにしていきたいと思う。新しい職員も増え、事故のことを知らない保育士にどうやって伝えていくかも大切です。</p>
金谷会長	<p>進行管理表のまま取り込んでいくわけではありませんね。</p>
事務局松原	<p>違う形で取り込み、点検についても検討していきます。</p>
西川委員	<p>行動計画をもとにして、話し合いをしてきたが、今後の議論の仕方について、案件に対するチェックシートなどを作成して確認していくのか。それとも事務局や保護者で議案を挙げ、そのことについて話し合っていくのか。</p>
事務局松原	<p>保育のあり方が焦点。誰が見ても分かるようなものにしていかなければならない。</p>
金谷会長	<p>その年の重点項目があってもいいと思う。</p>
	<p>質疑終了</p>
	<p>健康福祉部長挨拶</p>
金谷会長	<p>次回の資料を送付の際は、今回の議事録を同封してほしい。</p>
	<p>閉会</p>

--	--